市長記者会見　資料１

新八幡病院周辺の公共施設に関する方向性について

１．方向性

【新八幡病院】
・八幡市民会館の駐車場と八幡図書館の敷地を新八幡病院用地として活用する
【八幡市民会館】
・八幡市民会館は平成 27 年度末をもって廃止する
・廃止後の建物の取扱いについては、4 月以降にあらためて関係者と協議し、平成 27 年末を目途に検討を行う
【八幡図書館】
・八幡図書館は新八幡病院の整備スケジュールにあわせて、平成 27 年度末を目途に移転する
・八幡図書館の建物については移転完了後に撤去する

２．内　容

（１）新八幡病院

八幡市民会館の駐車場と八幡図書館の敷地を活用することで、
・病院の顔である表玄関を道路に面して配置して、道路に接する土地を増やし、病院へのアクセスを向上させる
・病院本体の後方（敷地の南側）に整備予定の立体駐車場に替えて道路に面した広い平面駐車場を確保する
・屋外において診療や器材の搬入、駐車等に係る大きなスペースを確保することにより、災害医療活動の拠点性を高める
・病院南側にまとまった緑地等の空間を配置し、アメニティを向上させる
など、新八幡病院のより一層の利便性向上や機能拡充を図る。

（２）八幡市民会館

○　新八幡病院用地として八幡市民会館の駐車場を活用することや、公共施設マネジメントの総量抑制の考え方等を踏まえ、市民会館は、平成 27 年度末をもって廃止する。
　これまでの市民会館利用者への対応については、既存施設（レインボープラザ、響ホールなど）を活用する方向で引き続き検討する。
○　市民会館廃止後の建物の取扱いについては、民間活力の活用を前提として、4 月以降にあらためて関係者と協議し、平成 27 年末を目途に検討を行う。

（３）八幡図書館

○　新八幡病院用地として八幡図書館の敷地を活用するため、八幡図書館は新八幡病院の整備スケジュールにあわせて、平成 27 年度末を目途に移転する。
　移転先は、新八幡病院の管理部門として活用予定の九州国際大学文化交流センターを候補とする。
○　八幡図書館の建物については移転完了後に撤去する。
　なお、撤去する図書館の部材やデザインを新病院等に活用することを今後検討する。

参考資料

新八幡病院周辺の公共施設に関する方向性　検討の視点

１　新八幡病院の整備について

新八幡病院は、救急医療、小児医療、災害医療など本市の政策医療にとって重要な役割を担うことから、それにふさわしい機能が求められている。

また、市議会（保健病院委員会）においては、所管事務調査の結果として、「建設予定地周辺の市有地について、必要な範囲で、新病院の医療エリアとすること」との提言が取りまとめられるなど、新八幡病院に対するより一層の機能強化や利用者の利便性向上が求められている。

２　公共施設マネジメントの考え方

今年 2 月に策定した「北九州市行財政改革大綱」において、文化施設や図書館などの市民利用施設については、これまでの政策課題に応じて整備された様々な施設が市内各地に配置されており、その結果、施設数や施設保有量が多い状況になっているため、来年度以降、施設分野別に、施設の利用状況や老朽化の状況を勘案しながら、保有量の縮減を検討していくこととしている。

今回は、新八幡病院の整備スケジュールに留意しながら、公共施設マネジメントの予定を前倒しする形で検討を進めてきた。

３　八幡市民会館と八幡図書館の維持のための財政負担

建設予定地に隣接する八幡市民会館と八幡図書館は、平成 24 年度に実施した耐震診断等の調査の結果、いずれも建物の耐震補強が必要であり、また、耐震改修とは別に、老朽化した施設・設備の更新などの改修に多額の費用が見込まれている。

◇市民会館：耐震改修：約 5 億円、施設・設備の更新等：約 10～15 億円
◇図　書　館：耐震改修：約 7 千万円、施設・設備の更新等：約 2 億円

４　八幡市民会館及び八幡図書館に関する関係者の意見

［共通］
・医療エリアとして活用するためには、施設の撤去はやむを得ない
・建物の維持には費用対効果も考慮する必要がある
・身近で使いやすく、貴重な建築物である施設の存続を要望

［八幡市民会館］
・外観を保全し、内部空間の新たな活用策を生み出すことを要望
・多額の経費をかけてまで維持すべきではない
・施設の存続要望は困難であるが、区内に集会機能の確保を要望

［八幡図書館］
・施設の存続要望は困難であるが、区内に図書館機能の確保を要望
・八幡図書館は価値のある建物ではあるが、老朽化しており、開放感のある図書館になることが望まれる。
・改修するとなれば、今後 50 年使う建物なので、これからを見越した使い勝手の良い施設になってほしい。